

① 持続可能な協働の在り方について

昨今、協働の名の下、地域では様々な取組が成されている。その活動範囲は、文化の継承や生涯教育の場に限らず、地域の安全安心、環境問題など、自らできることを中心に推進してきたと思っている。しかし、日本の基盤を形成してきた社会構造の変化が急速に進みつつある今、伝統的に培われてきた支え合いや助け合いの関係が希薄化し、自治会などの維持や運営、そして担い手の確保は課題となっている。

この状況を認識し、自治会、地域コミュニティ、行政の在り方を再度確認し、これからの地域づくりを担う体制や仕組について構築し直すことにより、協働を基本にした持続可能なまちづくりの基盤ができるのではないかと考えている。

ここで重要なことが、「住民参加」であることは言うまでもないが、一番の課題であり問題点でもある。一般的にみると参加者の偏りや固定化、住民の意識・関心の低さと同時に行政の体制整備が不十分であることも挙げられるのではないかと思う。

このような問題点を打破し、将来において住みやすい長与町を作り上げていくため更なる協働の推進を図っていくことが必要と考え、以下の質問をする。

- (1) 本町における住民参加推進についての問題点、課題は何か。
- (2) 長与町第9次総合計画、長与町まち・ひと・しごと創生総合戦略など、PDCAサイクルに着目してみた場合、プラン段階では住民参加が行われているが、あとのDCA段階では十分と感じられないがどのように評価しているのか。
- (3) 自治会等において、行政からの負担を感じている人も少なくない。自治会長の充て職や、実効性のない協議会や組織の統合なども含め、自ら考え実行するまちづくりを進めるためにも、行政から依頼される地域自治会の仕事が増えないことを願っていると言う人もいる。
その中で協働の体制を推進するためには、住民の理解が得られる取組や説明が必要と感じているが見解を伺う。
- (4) 本年度は町制50周年であり、12月までイベント等も残っている。次年度は長与村が発足してから150周年を迎える。住民同士の親交など協働の基礎となり得る行事、「町民の日」の制定など新たに計画してはと考えるがどうか。

② 次期町長選への出馬について

2期8年の任期も半年となった。前回、選挙後の議会において行った所信表明では、少子高齢化に備え「子育て」「教育」「介護」をキーワードに幸福度日本一を目指すとした。

また、機能的で魅力あふれる「まち」を目指すとしていた。また、将来必ず訪れる人口減少の波を視野に入れた行財政運営にも着々と取り組んでこられている。来年4月には選挙を控えているが、これまでの2期7年半の町政を振り返り、総括と次期選挙への考え方を聞くとともに、今後の町長が目指す長与町の展望を伺う。

- (1) 町長が掲げた方針に基づく施策の進捗状況をどう捉えているか。
- (2) 現在進めているまちづくりにおける問題や今後の課題は何か。
- (3) 3期目となる次期町長選挙への意欲とこれからのまちづくりの考えを伺う。